

# 京都の伝統織物ができるまで —オンライン体験を考える—

## 1 目的・概要

私たちは、「京都の伝統織物ができるまで—オンライン体験を考える—」というテーマで一年間活動してきました。春学期には、実際に工房に足を運び、職人の方々を取材することやゲストスピーカーの方々の講義を受けることで京都の伝統織物を深く学び、現代の伝統産業が抱える課題を発見しました。その一つが「若者の伝統文化に対する関心の低さ」です。私たちが職人の方々へ後継者問題について尋ねた際、職人の方々から「仕事が少ないから継がせたくない」や「この仕事だけで生活していくことは難しいから継がせるのは気の毒」といったことを聞く機会が多々ありました。



このことから私たちは、後継者不足などの伝統産業の課題は単に後継者を見つければ解決する問題ではないと考え、若者の伝統文化に対する関心を高め、職人の方々の現状を知ってもらうことで自分達が伝統文化を次の世代へと繋いでいかなければならないという問題意識を持ってもらうことを目的としました。この問題の原因として伝統織物が敷居の高いものや難しいものとして捉えられていることが挙げられます。そこで、私たちは機織り体験などのイベントを開催することによって、伝統織物を身近なものであると感じてもらい、この課題を解決しようと試みました。イベントは、11月5日、6日で開催されたクローバー祭への出展と、12月26日、27日に同志社大学今出川キャンパスの教室を借りて自分達が主催のイベントを行いました。クローバー祭への出展は、来場者が親子などの小さいお子さんが多いため機織り体験をイベントの中心とし、錦織ができるまでのそれぞれの工程を説明したポスターの展示、自分達が職人の工房見学に行った際の映像を工程ごとに編集し、ドキュメンタリー映像として流すことで、伝統織物に触れられる機会を作ることを目的としました。自分達が主催で行ったイベントでは、参加者が学生や年配の方であったため、クローバー祭で目的としていた触れられる機会を作るだけでなく、現代の伝統産業が抱える課題を解決していくためにはどうしていくべきか問題意識を持ってもらうことを目的としました。そのため、ただドキュメンタリー映像を流すのではなく、実際に職人の方に来ていただいて映像を一時停止しながら説明を加えることや、地域のご年配の方と交流することで若い世代に伝統文化の素晴らしさを知ってもらえるようにしました。

### Annual Schedule

2022年	4月	光峯錦織工房取材
	5月	錦織に関する基礎知識の習得
	6月	浜卯染工房取材
	7月	精華大学の米原有二氏による講義、長谷川杼製作所の取材、春学期成果報告会の準備

8月	夏合宿にて春学期の反省とこれからの指標を決定
9月	白井柄箔匠の工房取材
10月	クローバー祭出展の準備
11月	クローバー祭出展、イベントの企画
12月	主催のイベントの開催、秋学期成果報告会の準備
2023年 1月	秋学期成果報告会、まとめ

## 2 成果達成度

クローバー祭に出展した結果、二日間合わせて来場者数が202名と多くの方々に来ていただき、そのうち36名の方々に機織り体験をしていただきました。今回のイベントに対する満足度や伝統織物に対する意識がどのように変化したのかを測るために、アンケート調査を行いました。「機織り体験に対する満足度を教えてください」という質問に対しては、大変満足と答えた方が88%、満足と答えた方が12%という結果になりました。



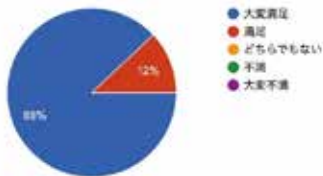
理由を答えて頂いた結果、実際に機織り機を使って織物を作るという経験は普段なかなかできないなどの理由からほとんどの方に満足していただきました。また、「イベント前後で伝統織物に対する意識は変わりましたか」という質問項目に対しては、そう思うと答えた方が50%、どちらかと言えばそう思うと答えた方が28.6%という結果になりました。



「どのように変化したのか」について問う質問に対しては、遠いものだと思ったけど身近に感じられたや、体験をすることで身近に感じたなど、イベントを通して伝統織物を身近に感じられた方が多く、私たちの目的である「身近に感じてもらう」はこのイベントで達成することができました。

12月26日、27日に開催した自分達が主催で行ったイベントでは、二日間で学生と地域の方合わせて27名が参加してくれました。イ

機織り体験に対する満足度を教えてください  
25件の回答



そう思う、どちらかといえばそう思うと回答された方にお聞きします。それはどのように変化しましたか  
15件の回答

もっと知りたいと思いました。
初めて体験することで身近に感じることができた
実際にやってみて楽しかった
体験が楽しく展示も良かったので興味が湧き、同志社の大学生なので来年このプロジェクト科目を履修してみたいと思った。
たのしい
体験できたから。
ポスターや映像で詳しく知ることが出来たから。
遠いものだと思ったけど身近に感じられた

イベント前後で伝統織物に対する意識は変わりましたか  
28件の回答



イベント内容としてはドキュメンタリー映像の上映、機織り体験、地域の方と学生の交流、ポスターや錦織の作品の展示を行いました。ドキュメンタリー映像の上映では、実際に職人の方に来ていただき工程について深く説明してもらったり、私たちが職人と実際に話したことで感じた問題意識などを映像を停止しながら説明することで、学生に問題意識を持ってもらうことができました。また、このイベントは「エンジェルスイヤリング」という学生団体に集客やイベントの運営を手伝ってもらいました。このように自分達プロジェクト科目のメンバーだけでなく学生団体の方と共にイベントを考えていくことで、若者が伝統文化を盛り上げていく流れを作り出すことができました。

## 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトを通して工房見学などで職人と交流したことで、私たちは錦織ができるまでのそれぞれの工程に職人の卓越した技術が詰まっており、そのことによって生み出されるものが錦織という伝統織物であることを知りました。また、こういった伝統織物について深く学ぶことができただけでなく、後継者不足などの課題を発見する力、そしてそれを解決するためにメンバー同士で話し合い、試行錯誤をしていく上での協調性を養うことができました。私たちはクローパー祭への出展や、自分達が主催したイベントを行ったことで、普段伝統文化に触れられる機会が無い人にも参加していただき、私たちの「若者の伝統文化に対する関心の低さ」を変えていくという目的を達成することができました。



### 編集後記

一年間プロジェクト科目を履修して、私はたくさんの方の事を学び、経験することができました。錦織などの伝統織物ができるまでの工程を知ることができただけでなく、実際に職人と話すことで現代社会において伝統文化が抱える課題や、機械などには絶対に代替することができない職人の技を生で見ることができました。また、こういった問題を解決に導くためにクローパー祭の出展や、自分達で主催したイベントを行うことができたのはこのプロジェクト科目だからこそできたことであり、貴重な経験になりました。

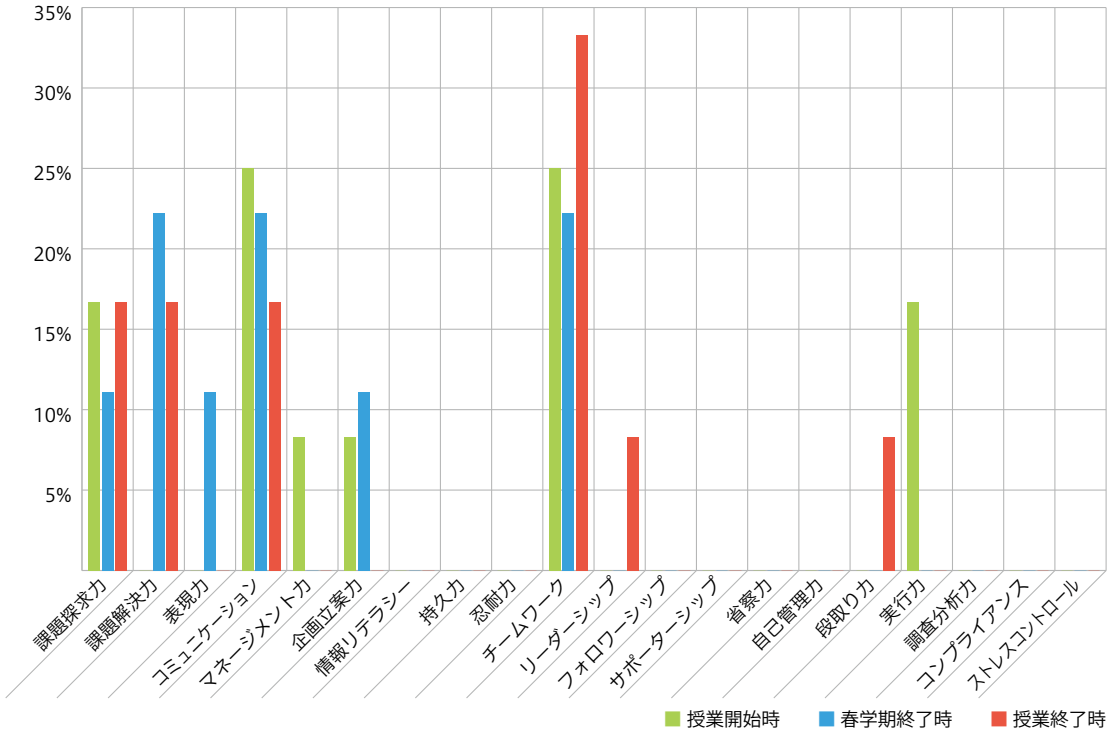
一年間本プロジェクトに協力して下さった担当の先生方、科目関係者の方々、取材先の方々、その他にも本プロジェクトに関わって下さった全ての皆様にこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

### プロジェクトメンバー

福田 理和子(文4) 南 絢香(文2) 山本 一輝(文化情報2) 田村 仁美(グローバル地域文化4)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

